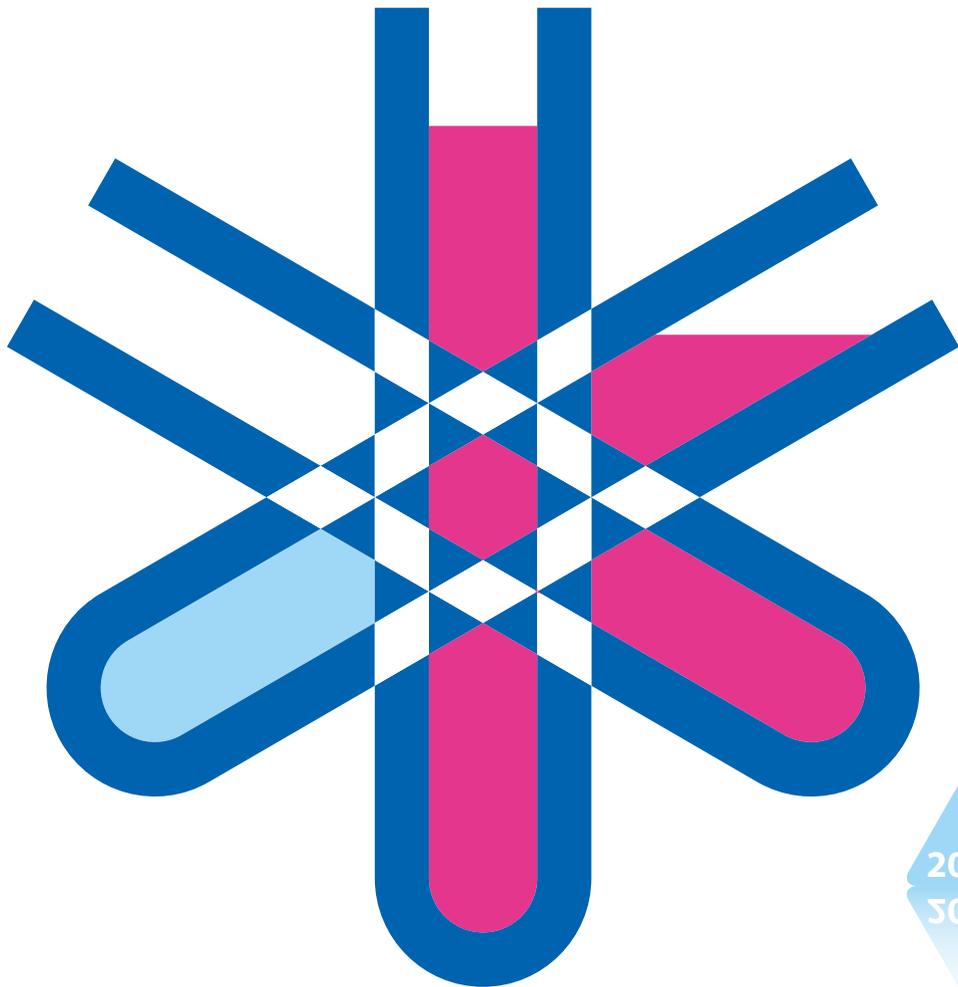


横查情報月報



2023
5053

10
10

横浜市衛生研究所

令和5年10月号 目次

【検査結果】

医動物・種類同定検査結果（令和5年7月～9月）	1
夏期食品収去検査結果（令和5年度）	3
遺伝子組換え食品の検査結果（令和5年度）	5

【情報提供】

衛生研究所ウェブページ情報（令和5年9月）	7
-----------------------------	---

【感染症発生動向調査】

感染症発生動向調査報告*（令和5年9月）	8
----------------------------	---

* この記事では主に、医療機関向けの情報を提供しています。

感染症発生動向調査は感染症法に基づく国の事業です。本事業に関する詳細は、「感染症発生動向調査とは」（下記URL）をご参照ください。

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryo/eiken/kansen-center/doko/systemgaiyo.html>

医動物・種類同定検査結果（令和5年7月～9月）

医動物担当では、人の健康を害し、人に不快感を与える昆虫、ダニ、寄生虫等の試験・調査・研究を行っています。

その中の一つとして、各区福祉保健センター、各市場検査所、事業者などの依頼を受け、昆虫類を中心とした種類同定検査を行っています。昆虫類の種類を同定することによって、発生源、発生時期、人に対する害などが分かると、効果的な対策を立てることにつながります。

令和5年7月から9月の3か月間の種類同定検査報告件数は、その他の節足動物4件(クモ目4件)、その他1件(クモ目の卵のう)でした。

検査結果の詳細は以下のとおりです。

相談内容・発生状況等 〈相談月〉	写真 (状態、体色、大きさ)	同定結果	生態・その他
家の椅子フレーム部分に虫がいた。 〈6月〉		ヒラタグモ (クモ目)	家の周囲や壁などの隅に白色円盤状の巣を作る。巣の周囲には受信糸をひき、それに触れた昆虫を捕まえる。夜間活動性で1年中出現する。日本に広く分布し、人への刺咬報告はない。
会社敷地内でクモを発見した。 〈7月〉		セアカゴケグモ (クモ目)	基本的に攻撃性はないが毒を持っており、外来生物法に基づく特定外来生物に指定されている。
大黒ふ頭の路上にある花壇でクモを発見した。 〈9月〉			体色は黒く、背面中央部に赤い縦長の斑紋、腹面にゴケグモ類特有(砂時計型)の赤い斑紋がみられる。
	成虫、茶褐色 腹部に斑紋あり、約8mm		
	成虫、黒色、背面は赤い斑紋、腹面に赤斑紋(砂時計型)あり、約10mm		

相談内容・ 発生状況等 〈相談月〉	写真 (状態、体色、大きさ)	同定結果	生態・その他
<p>施設敷地内でクモを発見した。 〈8月〉</p>	 <p>成虫(左)約 10mm、幼虫(右)約6mm、褐色、腹面に赤斑紋(砂時計型)あり</p> <p>卵のう、金平糖状、約10mm</p>	<p>ハイイロゴケグモ (クモ目)</p>	<p>基本的に攻撃性はないが毒を持っており、外来生物法に基づく特定外来生物に指定されている。</p> <p>体は褐色、灰色または黒色で個体差がある。腹部背面の正中線上に斑紋がある。腹面にゴケグモ類特有(砂時計型)の赤い斑紋がみられる。卵のうは、ハイイロゴケグモ特有の金平糖状の形をしている。全世界の熱帯、亜熱帯、温帯の一部に分布する。</p>
<p>商業施設内でクモの卵のうの様なものを発見した。 〈9月〉</p>	 <p>白色、綿状、約6~8mm</p>	<p>クモ目の卵のう (クモ目)</p>	<p>クモは複数の卵をまとめて産み、たくさんの糸で作った繭で卵を包み込み、卵のうを作る。</p>

横浜市内で確認されたゴケグモ属については、以下のウェブページに掲載されています。

(※) 【参考】ゴケグモに注意

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/sumai-kurashi/seikatsu/kokyo/gaichu/seakagokegumo.html>

(横浜市医療局ウェブページ)

【 微生物検査研究課 医動物担当 】

夏期食品収去検査結果（令和5年度）

夏期食品等一斉点検は、厚生労働省から出された「令和5年度食品、添加物等の夏期一斉取締りの実施について」の通知に基づき、夏期に多発する食中毒等食品による事故防止と食品衛生の確保を目的に全国一斉に実施されるものです。

本市においても令和5年6月1日から8月31日までを重点監視期間と定め、一斉点検を行いました。

期間内に医療局食品専門監視班と福祉保健センターが収去し、搬入された検体について、当所が行った検査の結果について報告します。

1 食品添加物検査

菓子類、野菜類・果実及びその加工品、清涼飲料水等の食品134検体（輸入品105検体、国産品29検体）について、保存料、着色料、甘味料など2,743項目の検査を実施しました（表1）。

着色料の表示があったが、検査では不検出となった食品（菓子とレトルト食品）が2検体ありました。これらについては、福祉保健センターが輸入者等を所管する自治体に調査を依頼しています。

表1 食品添加物検査

令和5年6月～8月

食品分類	検体数	違反検体数	項目数	検査項目								
				保存料	着色料	甘味料	酸化防止剤	漂白剤	発色剤	香料	重金属	
肉卵類及びその加工品	1		21	3	17					1		
穀類及びその加工品	3		74	9	51	5	9					
野菜類・果実及びその加工品	9		114	21	68	18	4	3				
菓子類	41		779	102	477	107	93					
清涼飲料水	23		678	227	357	62	3				14	15
酒精飲料	6		61	18	34	3	6					
かん詰・びん詰食品	16		317	48	238	8	21	2				
その他の食品	35		699	63	510	59	66	1				
合計	134	0	2,743	491	1,752	262	202	6	1	14	15	

【 理化学検査研究課 食品添加物担当 】

2 細菌検査

細菌検査の内訳は、魚介類9検体、冷凍食品17検体、肉卵類及びその加工品1検体、乳製品2検体、清涼飲料水21検体、その他の食品・ふきとり53検体、計103検体221項目(表2)でした。

検査の結果、規格基準*1違反はありませんでした。

また、規格基準のないそうざい・そうざい半製品32検体については、旧食品衛生法(令和3年6月1日廃止)の衛生規範*2の項目について検査を実施しました。

*1 規格基準とは、食品及び添加物について食品衛生法第11条により基準、規格を定めたもののことです。

*2 衛生規範とは、弁当、そうざい、漬物、洋生菓子及び生めん類について定められた衛生的な取り扱い等の指針のことです。食品衛生法の改正に伴い令和3年6月1日廃止されました。

横浜市では現在、食品営業者への衛生指導のための参考値として、衛生規範で示された数値を使用しています。

食品区分	検査 検体数	検査 項目数	違反 検体数
魚介類			
生食用鮮魚介類(刺身用切り身等)	9	9	
冷凍食品			
無加熱摂取冷凍食品	6	12	
凍結直前に加熱された加熱後摂取冷凍食品	3	6	
凍結直前未加熱の加熱後摂取冷凍食品	8	16	
肉卵類及びその加工品			
食肉製品(スモークタン)	1	3	
乳製品			
ナチュラルチーズ(ソフト及びセミハードに限る)	2	2	
清涼飲料水			
清涼飲料水	11	11	
果汁入り飲料	8	8	
ミネラルウォーター(殺菌又は除菌無)	2	6	
その他の食品・ふきとり			
加熱そうざい・弁当類(加熱品)	24	89	
非加熱そうざい・弁当類(非加熱品)	7	21	
そうざい半製品(未加熱処理品)	1	3	
容器包装詰加圧加熱殺菌食品	14	28	
ふきとり(器具等)	7	7	
合 計	103	221	0

【 微生物検査研究課 細菌担当 】

遺伝子組換え食品の検査結果（令和5年度）

遺伝子組換え食品は、内閣府にある食品安全委員会で安全性に問題ないと判断され承認された後、国内での製造・輸入・販売等が可能になります。

横浜市では平成13年度から、安全性が未承認の遺伝子組換え食品が市内に流通していないか、また、適正な表示が行われているかを検査し確認しています。

今回は、令和5年4月と6月に、医療局食品専門監視班が収去した「遺伝子組換え」の表示がない食品30検体の検査結果を報告します。

1 遺伝子組換えトウモロコシの定性検査

トウモロコシ加工品16検体について、安全性未承認の遺伝子組換えトウモロコシ(Bt10)^{*1}の定性検査を行いました。

検査の結果、14検体で不検出、2検体で検知不能^{*2}となりました。違反検体はありませんでした(表1)。

表1 遺伝子組換えトウモロコシ(Bt10)の検査結果

品名	原産国	検体数	検出数	検知不能数
コーンスナック菓子	日本(7)、韓国(1)	8	0	1
ホールコーン	日本(2)、タイ(2)、ハンガリー(1)、 フランス(1)、アメリカ(1)	7	0	0
とうもろこし茶	韓国	1	0	1
計		16	0	2

^{*1} 除草剤耐性と害虫抵抗性を持つ遺伝子を組み込んだトウモロコシの品種です。過去にアメリカで安全性審査が行われていない種子が誤って流通し、栽培された事例がありました。日本では未承認で、食品衛生法により販売等が認められていないため、検出されれば「食品衛生法違反」になります。

^{*2} 「検知不能」とは、元々食品が持っている、本来なら遺伝子組換え食品であるかどうかにかかわらず検査で検出されるはずの遺伝子(内在性遺伝子)も不検出となり、検査の判定ができない場合をいいます。この原因として、加熱や加圧等の加工処理中に食品中の遺伝子が分解してしまうことが考えられます。

2 遺伝子組換えコメの定性検査

コメ加工品10検体について、安全性未承認の遺伝子組換えコメ3品種(63Bt、NNBt、CpTI)^{*3}の定性検査を行いました。

検査の結果、いずれの検体からも検出されず、違反検体はありませんでした(表2)。

表2 遺伝子組換えコメ(63Bt、NNBt、CpTI)の検査結果

品名	原産国	検体数	検出数	検知不能数
穀類加工品(フォー、ビーン等)	ベトナム(2)、 日本(1)、台湾(1)	4	0	0
米菓	日本	3	0	0
餅、米粉	韓国(2)、日本(1)	3	0	0
計		10	0	0

*3 いずれも害虫抵抗性を持つ遺伝子を組み込んだコメの品種です。日本では未承認で、食品衛生法により販売等が認められていないため、検出されれば「食品衛生法違反」になります。

3 遺伝子組換えダイズの定量検査

ダイズ穀粒4検体について、安全性承認済みの遺伝子組換えダイズ3品種(RRS、LLS、RRS2)*4の定量検査を行いました。

定量検査の結果、いずれの検体も混入率は5%以下*5であり、違反検体はありませんでした(表3)。

表3 遺伝子組換えダイズ(RRS、LLS、RRS2)の検査結果

品名	原産国	検体数	混入率5%を超える検体
ダイズ穀粒	カナダ(3)、日本(1)	4	0
計		4	0

*4 いずれも除草剤耐性を持つ遺伝子を組み込んだダイズの品種です。日本では、それぞれ平成13年(RRS)、平成14年(LLS)、平成19年(RRS2)に安全性審査を経て承認されています。

*5 分別生産流通管理が適切に行われた場合でも、遺伝子組換え農作物の一定の混入は避けられないことから、ダイズでは5%以下の意図せざる混入が認められています。分別生産流通管理とは、遺伝子組換え農作物と非遺伝子組換え農作物を生産・流通・加工の各段階で相互に混入が起らないよう管理し、そのことが書類等により証明されていることをいいます。分別生産流通管理が行われた遺伝子組換えダイズを原材料とした場合は「遺伝子組換え」等の表示、分別生産流通管理が行われていない場合は「遺伝子組換え不分別」等の表示が必要です(義務表示)。また、分別生産流通管理を行い、遺伝子組換えダイズの混入率を5%以下に抑えている場合は「分別生産流通管理済み」等の表示、分別生産流通管理を行い、遺伝子組換えダイズの混入がないと認められる場合は「遺伝子組み換えでない」等の表示を任意で行うことが可能です(任意表示)。

【 理化学検査研究課 食品添加物担当 】

衛生研究所ウェブページ情報（令和5年9月）

横浜市衛生研究所ウェブページは、平成10年3月に所独自のウェブサイトとして開設されました。現在は、本市ウェブサイトと統合され、感染症情報、保健情報、食品衛生情報、生活環境衛生情報、薬事情報を提供しています。今回は、当ウェブページにおける令和5年9月の追加・更新記事について報告します。

1 追加・更新記事

令和5年9月に追加・更新した主な記事は、10件でした。

掲載月日	内容
9月4日	熱中症情報(2023年9月4日)
9月5日	横浜市における蚊媒介感染症のウイルス検査結果（速報版第8回） 感染症に気をつけよう(9月号)
9月12日	熱中症情報(2023年9月12日)
9月14日	横浜市インフルエンザ流行情報 1号
9月15日	横浜市における蚊媒介感染症のウイルス検査結果（速報版第9回）
9月19日	熱中症情報(2023年9月19日)
9月21日	横浜市インフルエンザ流行情報 2号
9月22日	横浜市衛生研究所における新型コロナウイルスの全ゲノム解析結果
9月28日	横浜市インフルエンザ流行情報 3号

2 記事紹介

横浜市衛生研究所における新型コロナウイルスの全ゲノム解析結果

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryō/eiken/kansen-center/byogentai/covid-19genome.html>

熱中症情報

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryō/eiken/hokenjoho/wadai/necchusho/heatstroke.html>

感染症に気をつけよう

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryō/eiken/kansen-center/shimin/kiwotukekyou.html>

横浜市における蚊媒介感染症のウイルス検査結果

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryō/eiken/kansen-center/byogentai/infk-kabaikai.html>

横浜市インフルエンザ流行情報

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryō/eiken/kansen-center/rinji/influenza-rinji-2023.html>

【 感染症・疫学情報課 】

横浜市感染症発生動向調査報告（令和5年9月）

《今月のトピックス》

- 腸管出血性大腸菌感染症の報告数が多くなっています。食品は加熱処理し、食事の前などにはしっかり手を洗いましょう。
- 新型コロナウイルス感染症は幅広い年齢層で患者が発生しており、今後も注意が必要です。
- インフルエンザは、例年の同時期と比較して患者が多くなっています。
- 20歳代～50歳代を中心として梅毒が多く発生しており、注意が必要です。妊婦の報告もみられます。

◇ 全数把握の対象

<9月期に報告された全数把握疾患>

腸管出血性大腸菌感染症	29件	クロイツフェルト・ヤコブ病	2件
デング熱	1件	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	2件
レジオネラ症	5件	後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)	1件
アメーバ赤痢	2件	侵襲性肺炎球菌感染症	5件
カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	3件	梅毒	17件

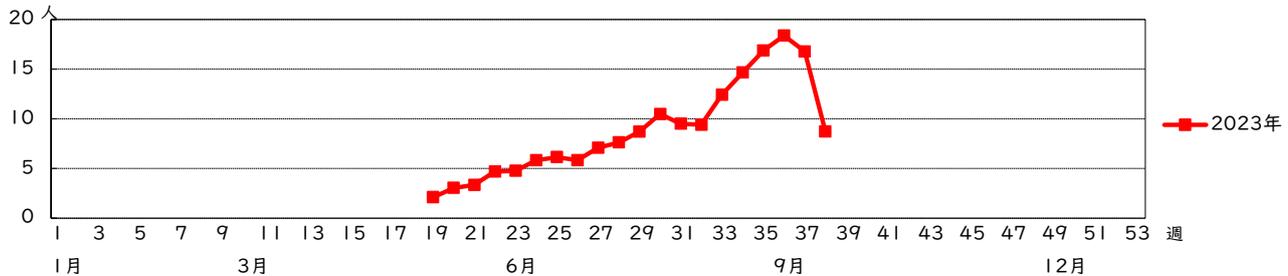
- 1 **腸管出血性大腸菌感染症**:10歳未満～70歳代で、血清群O157が17件、O103が4件、O111が2件、O26が1件、O148が1件、O血清不明が4件です。経口感染と推定される報告が6件、接触感染と推定される報告が6件、感染経路等不明の報告が17件ありました。
- 2 **デング熱**:20歳代で、海外での蚊からの感染と推定されています。
- 3 **レジオネラ症**:80歳代～90歳代で、水系感染と推定される報告が2件、水系感染または塵埃感染と推定される報告が1件、感染経路等不明の報告が2件ありました。
- 4 **アメーバ赤痢**:いずれも50歳代で、経口感染と推定される報告が1件、感染経路等不明の報告が1件ありました。
- 5 **カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症**:70歳代～80歳代で、いずれも感染経路等不明です。
- 6 **クロイツフェルト・ヤコブ病**:70歳代および80歳代で、いずれも古典的CJDです。
- 7 **劇症型溶血性レンサ球菌感染症**:40歳代および70歳代で、血清群はA群が1件、G群が1件です。創傷感染と推定される報告が1件、感染経路等不明の報告が1件ありました。
- 8 **後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)**:30歳代で、性的接触(同性間)での感染と推定されています。
- 9 **侵襲性肺炎球菌感染症**:60歳代～80歳代(ワクチン接種歴無1件、不明4件)で、飛沫・飛沫核感染と推定される報告が2件、感染経路等不明の報告が3件ありました。
- 10 **梅毒**:20歳代～50歳代で、早期顕症梅毒Ⅰ期11件、早期顕症梅毒Ⅱ期1件、無症状病原体保有者5件です。性的接触による感染と推定される報告が15件(異性間12件、同性間1件、詳細不明2件)、感染経路等不明の報告が2件ありました。

報告週対応表	
第35週	8月28日～9月3日
第36週	9月4日～9月10日
第37週	9月11日～9月17日
第38週	9月18日～9月24日

◇ 定点把握の対象

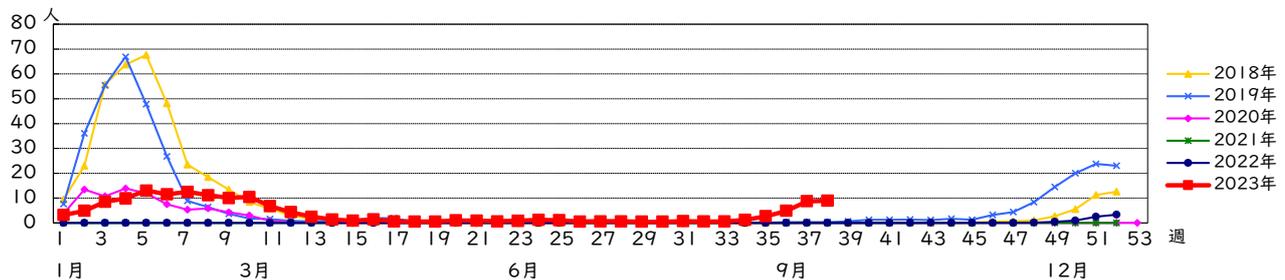
1 新型コロナウイルス感染症:

2023年5月8日(第19週)以降は定点報告となりました。第19週は2.10で、以降増加が続き、第35週16.86、第36週18.38、第37週16.78、第38週8.73と推移しています。



2 インフルエンザ:

2023年9月4日(第36週)より2023/2024シーズンに入りました。第35週2.70、第36週4.91、第37週8.76、第38週8.97と増加しています。第38週の市内迅速診断キットの結果は、A型760件、B型1件、A・B型ともに陽性2件と、A型が多く検出されています。(詳細は、横浜市インフルエンザ流行情報3号をご参照ください)



3 性感染症(8月)

性器クラミジア感染症	男性:30件	女性:12件	性器ヘルペスウイルス感染症	男性:11件	女性:10件
尖圭コンジローマ	男性:10件	女性:3件	淋菌感染症	男性:16件	女性:3件

4 基幹定点週報

	第35週	第36週	第37週	第38週
細菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.50	0.00
無菌性髄膜炎	0.00	0.25	0.25	0.00
マイコプラズマ肺炎	0.25	0.25	0.00	0.25
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0.00	0.00	0.00	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)	0.00	0.00	0.00	0.00

5 基幹定点月報(8月)

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	17件	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	2件
薬剤耐性緑膿菌感染症	0件	-	-

【 感染症・疫学情報課 】

◇ 病原体定点からの情報

市内の病原体定点は、小児科定点:8か所、インフルエンザ(内科)定点:4か所、眼科定点:1か所、基幹(病院)定点:4か所の計17か所を設定しています。

検体採取は、小児科定点とインフルエンザ定点では定期的に行っており、小児科定点は8か所を2グループに分けて毎週1グループで実施しています。

眼科と基幹定点では、検体採取は対象疾患の患者から検体を採取できたときにのみ行っています。

〈ウイルス検査〉

9月期(2023年第35週～第38週)に病原体定点から搬入された検体は、小児科定点19件、内科定点5件、基幹定点1件及び定点外医療機関1件でした。

ウイルス分離7株及び各種ウイルス遺伝子16件が検出されています。

表 感染症発生動向調査におけるウイルス検査結果 (2023年第35週～第38週)

主な臨床症状等 分離・検出ウイルス	上気道炎	下気道炎	インフルエンザA	アデノウイルス感染症	横紋筋融解症
ヒトコロナウイルス229E	1				
アデノウイルス1型	2			1	
アデノウイルス3型	3				
ライノウイルス	2	2			
パラインフルエンザウイルス2型	1				
ヒトボカウイルス		1			
インフルエンザウイルスAH1pdm	1		2		
インフルエンザウイルスAH3			4		
コクサッキーウイルスA2型				1	
パレコウイルス3型					1
合計	6	-	-	1	-
	5	3	6	1	1

上段:ウイルス分離数

下段:遺伝子検出数

【 微生物検査研究課 ウイルス担当 】

〈細菌検査〉

9月期(2023年第35週～第38週)の「菌株同定」の検査依頼は、基幹定点からカルバペネム耐性腸内細菌目細菌2件、メチシリン耐性黄色ブドウ球菌1件、黄色ブドウ球菌1件でした。非定点からの依頼は、大腸菌2件でした。保健所からの依頼は、腸管出血性大腸菌22件、カルバペネム耐性腸内細菌目細菌4件、カルバペネム耐性腸内細菌目細菌(環境由来)17件、劇症型溶血性レンサ球菌2件でした。

「分離同定」の検査依頼は、保健所からレジオネラ属菌3件でした。

「小児サーベイランス」の検査依頼は、咽頭炎1件でした。

表 感染症発生動向調査における病原体調査(2023年第35週～第38週)

菌株同定	項目	検体数	血清型等	
医療機関	基幹定点			
	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌	2	<i>Enterobacter cloacae</i> complex (1)、 <i>Klebsiella aerogenes</i> (1)	
	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌	1	<i>Staphylococcus aureus</i> PVL産生(1)	
	黄色ブドウ球菌	1	<i>Staphylococcus aureus</i> enterotoxin A産生(1)	
非定点	大腸菌	2	<i>Escherichia coli</i> (2)	
保健所	腸管出血性大腸菌	22	O157:H7 VT1 VT2 (7)、O157:H7 VT2 (4)、O157:H- VT2 (1)、O103:H2 VT1 (4)、O103 VT1 (1)、O111:H- VT1 VT2 (2)、O74:H28 VT2 (1)、Og148:Hg18 VT2 (1)、O26 VT1 (1)	
	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌	4	<i>Klebsiella pneumoniae</i> (1)、 <i>Enterobacter cloacae</i> complex (1)、 <i>Klebsiella aerogenes</i> (2)	
	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌(環境由来)	17	<i>Enterobacter cloacae</i> complex (13)、 <i>Citrobacter freundii</i> complex (3)、 <i>Klebsiella oxytoca</i> (1)	
	劇症型溶血性レンサ球菌	2	G群溶血性レンサ球菌(1)、A群溶血性レンサ球菌(1)	
分離同定	材料	項目	検体数	同定、血清型等
保健所	喀痰	レジオネラ属菌	3	培養陰性(2)、 <i>Legionella pneumophila</i> SG6 (1)
小児サーベイランス	材料	臨床症状	検体数	同定、血清型等
小児科定点	咽頭ぬぐい液	咽頭炎	1	A群溶血性レンサ球菌 TUT 陽性(1)

【 微生物検査研究課 細菌担当 】